

平成22年度 学校自己評価シート

星野学園小学校

目指す学校像	全人教育による21世紀を担う人づくり 1.よく考え、進んで学ぶ子ども 2.広い心を持ち思いやりのある子ども 3.礼儀正しく、あいさつのしっかりできる子ども 4.明るく健康な子ども		
本年度の重点目標	番号	1 学習指導力の向上に努め、基礎・基本的な学習内容の確実な定着で、学力の向上を図る。 2 道徳教育の充実、行事や豊かな体験活動を通し、広い心を持ち思いやりのある子どもを育てる。 3 基本的生活習慣の確立、体力向上に積極的に取り組むとともに、明るく健康な子どもを育てる。 4 開かれた学校、信頼される学校づくりの推進。	

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者	14名
児童	0名
事務局(教職員)	1名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				22年度評価(平成23年2月23日現在)			実施日 平成23年2月26日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・基礎学力の習得状況にやや個人差が見られる。確かな学力向上に向けて、教員が作成する教材プリントに加えて、ノートの基本的な使い方の学習を進めている。授業はすべて2人担任制を実施しているため、きめ細かく児童の理解につなげている。	①基礎学力の向上と家庭学習の定着を図る。	①2人担任制の実施。 ②国語・算数を中心に、毎日出宿題を出し、内容の定着を図る。	①国語・算数の単元テストの学級得点率を80点以上にする。 ②宿題をやりきる児童を100%とする。	①単元テストや小テストを効果的に活用できた。基礎基本の力の定着は概ね達成できたが、支援の必要な児童がいる。 ②指導の必要な児童が若干名いる。	B A	①豊富な練習問題を継続的に行い、個別指導を通して基礎基本を定着させる。 ②家庭と共に改善策について連携する。	①家庭学習シートや音読カードの目標枚数などを励みに、家庭学習が増えてきている。Aで良い。 ②評価はAで良い。 ③「読み聞かせ会」や先生のお勧めの本の紹介により、読書への関心が高まっている。 ④グループ活動の中で、役割分担もよくできている。 ⑤「聞く」姿勢の徹底を引き続きお願いしたい。
		②読解力・表現力・思考力の育成。	③図書室の利用。読み聞かせ会を実施する。	③週に1度の図書室利用や学級文庫の活用。	③読書を通して、本に興味を持つ児童が増え、文章の読解力養成につながった。	A A	③集中力・想像力を高めるために児童が主体的に読書をする環境を作る。また、蔵書を増やし活用の場を増やす。 ④今後も教材研究や指導方法の研究をしっかりと行っていく。	
		③学習規律の定着を図る。(聞く姿勢・話す態度)	⑤毎時間の授業の中で、具体的に声をかけをする。	⑤毎時間の授業の中で、具体的に声をかけをする。	⑤教員アンケートの結果が向上するようにする。	⑤「聞く・話す」態度を、授業や発表会等を通して意識付けることができた。	B	
2	・学校長が道徳の授業を行い、学校の教育方針を理解させている。様々な場面や行事を通して、人間としての正しさ、命の尊さ、相手を思いやる優しさ等豊かな人間性をはぐくんでいる。	①心に響く道徳教育、感動体験や観察力がつく行事の推進。	①道徳の授業と体験活動を関連させ、児童の成長を図る。行事の事前学習・体験・評価・事後学習の徹底。	①体験活動と道徳の価値観を関連づけて指導し、行事後のお礼の手紙等で感謝の気持ちを伝えられたか。	①学校長の道徳の授業や行事後のお礼の手紙等事後学習を通して、心の教育の充実が図られた。	A A	①思いやり欠ける言葉遣いをする児童が見られることがあり、継続的に指導していく。家庭にも感謝の気持ちを伝える。	①帰宅後、論語の説明をしてくれたり、行事のあった日には良く話をしてくれる。 ②通学でお世話になっている方に立ち止まって挨拶ができるようになった。 ③家族旅行の時もしおりを自分で作って、準備ができています。
		②進んで挨拶のできる力を育てる。	②教員の「おはよう」指導の実施や学級目標で挨拶を励行する。	②自分から挨拶のできる児童を100%とする。	②登校時を中心に、全員が立ち止まって挨拶ができるようになった。	A	②人を選ばずに、誰にでもできるように、全教員で指導に力を注ぎたい。	
		③学年に応じた「自立」の育成。	③毎日の生活や宿泊行事を通し、自覚をもって自立していく志を育てる。	③発達段階に応じた「自立」ができているか。	③基本的生活習慣に関わる自立が、概ね達成できた。	B	③学年に応じた「自立」を児童自身にも考えさせたい。	
3	・大方の児童が体育の授業や遊具場、グラウンド遊びに意欲的に取り組んでいる。電車通学をする児童が多く、集団になると公共のマナーを守れない場合がある。	①体力の向上を図る。	①体力テストを実施・分析し、遊具場・グラウンドを活用して、運動の習慣化を図る。	①積極的に外遊びをする児童を90%以上にする。(お手伝いや補習等を除く)	①体力テストの結果、県平均値を上回るものが少なかった。外遊びについては概ね達成できた。	B A	①体育の授業を工夫し、運動しやすい環境づくりに取り組む。休み時間を確保し、外遊びを励行する。	①マラソン大会に向けて、目標を持って家での体力づくりができた。 ②電車内のマナーや体の不自由な人への思いやりが欠けている。学年に応じた指導必要。
		②安全に関する意識付けを図る。	②防犯・安全に関する講演会の実施。教員によるバス・電車の見回り実施。	②事故と安全に注意して生活できたか。	②児童の安全に配慮し、その体制を整備することができた。	A	②登下校時の電車のマナーや、不審者への対応を繰り返し指導する必要がある。	
4	・授業参観や保護者会、学校公開行事では、たくさんの方が来校し、保護者や地域の方の関心も高く協力的である。これからも、学校から情報を発信し、開かれた学校づくりを進める。特に保護者とは、教育活動や連絡を密に取り、信頼関係の構築に努めている。	①地域と触れあう学校づくり。(星野学園小学校の信頼と伝統を築く)	①田植え、川越の町巡り、文化祭等の行事を通し地域との触れ合いを大切ににする。	①お礼の手紙を通して、地域の人たちと積極的に触れ合えた。	①生活科や社会科の授業で、地域の専門家や施設と連携をとりながら、取り組み組めた。	A A	①更に地域の人達や施設と関わる教育活動を計画する。	①評価はAで妥当である。 ②小中高合同の行事がたいへんほほえましい。AAAでも良いくらい。特に体育祭では高校生がとてもよく面倒をみてくれている。 ③カラー通信はとても楽しみにしている。今後も継続してほしい。 ④ホームページは良く工夫されていて、楽しみに見ている。
		②小中高の連携を推進する。	②行事の交流や、中学・高校の先生を積極的に招く。中高合同クラブ活動の実施。	②中学・高校との交流。	②特別活動や体育祭・文化祭・合唱祭等の行事で交流が図られた。中高委員会による読み聞かせ会や高校進路決定者のボランティア交流会の実施ができた。	A	②小中高のつながりを大切にし、行事に活かす。中学・高校への積極的なアプローチを進める。	
		③子どもの様子を保護者に知らせる。	③保護者会や授業参観、二者面談の実施。学級通信による情報の発信。連絡帳や電話連絡の積極的な活用。	③学級通信を月2回以上発行。連絡帳でのやりとりを必要に応じて行う。	③学級通信や毎学期行っている授業参観、クラス懇談会で子どもの様子を伝えられた。また、連絡帳や二者面談で個別対応もできた。	A	③家庭が「求めているもの」を見極め、学級通信等を充実させて、一層信頼が増すように努めたい。また、教育上の課題を協力して解決していく。	
	④学校情報の公開。	④ホームページによる定期的な情報の提供を行う。また、地域・保護者に文化祭や体育祭の一般公開を実施する。	④ホームページを月毎に更新する。文化祭の来場者数を増やす。	④ホームページでは児童の行事の様子を中心に公開。多くの方にアクセスして頂いた。文化祭での箏曲ステージ発表や教室展示・クラブ発表も好評であった。	A	④地域の学校教育・家庭教育への関心は高まっている傾向にある。内容を見極めレベルアップを図る。		